

シ 14 発第 11 号  
平成 15 年 4 月 4 日

外 務 大 臣 殿

社団法人 シャンティ国際ボランティア会  
会長 松 永 然 道

平成 14 年度国際開発協力関係民間  
公益団体補助事業完了報告書

平成 14 年 9 月 18 日付第 263 号をもって補助金の交付決定を受けた標記の事業が完了したので、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第 14 条前段の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

1. 補助事業の名称

6. 地域産業向上事業 (2) 青少年職業訓練計画事業  
(カンボジア)

2. 補助金の交付決定額及びその精算額(別紙のとおり)

3. 補助事業の実施期間

平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日

4. 補助事業の成果

**4-1. 事業対象地**

プノンペン市 日本カンボジア友好職業訓練センター

本校 バントラバエク高校内

分校 1 旧チョーク工場

分校 2 チャアングレー中学校隣 からなる。

バットバン州 プレイコンクラー青少年職業訓練センター

## 4-2. 事業概要

### 事業目標

青少年に対する職業訓練教育が著しく遅れているカンボジアにおいて、プノンペン市日本カンボジア友好職業訓練センターとバタンバン州プレイコンクラール青少年職業訓練センターにおいて、

青少年を対象とする職業・技術訓練教育の機会の不足を緩和する。

青少年の生計手段の不足を緩和する。

職業・技術訓練教育の質的向上を促進する。

プノンペン市教育局管轄の「日本カンボジア友好職業訓練センター」においては、中学・高校生及び一般青少年を対象とした職業・技術訓練教育（縫製、木工、電子、電気、オフセット印刷、シルクスクリーン印刷）を実施する。また、バタンバン州教育局管轄の「プレイコンクラール青少年職業訓練センター」においては、青少年を対象とした職業・技術訓練教育（縫製、養蚕、養魚、機織）を実施する。

カンボジア二大都市の教育局管轄の職業訓練教育施設の協力関係の促進し、両地域の青少年対象の職業・技術訓練教育の質的向上を促進する。

### プノンペン市

#### 日本カンボジア友好職業訓練センター

### 全体的な実施状況報告

本訓練センターはプノンペン市教育局管轄で 1992 年に大規模な施設改修を行い現在に至っている。訓練コースはセンター及び分校の立地から一般の青年男子・女子を対象とするものと高校生・中学生を対象とするものに分けられる。中学高校生を対象とするものは技術家庭科（生活科）に準ずるもので、理論と技術（実際）に分けてカリキュラムが組まれている。1993 年以降、教育省では訓練教育の標準カリキュラムの必要性を認めているものの、カンボジア全土の中高生対象の技術訓練を行うまでの施設や教官が整っていないことから、未だ各訓練校が自主的に作成したカリキュラムで学級は運営されており、本訓練センターも独自のものを利用している。一般の青年男女を対象にした訓練コースは OJT を採用しており、訓練資材費へ還元している。

縫製洋裁コース等の他の訓練事業も自立採算型を目指しているが、民間製造業が全体的に低い技術水準であることと国内の市場性が低いこともあり、民間レベルの向上を待つ必要があると言えよう。洋裁では民間企業が進める民芸品の下請けを一部受けるなど、今後の成長に期待がかかっている。縫製洋裁コースを終了した生徒は、ハンカチ、バック、襟付きのシャツ、ズボンの作成ができる技術を身につけた。訓練の結果として、1)個人で洋裁屋を開業する。2)縫製工場で就職する。3)本訓練センターで就職する、等が挙げられる。

電子のコースにおいては、基礎技術から各種、電気、電子機器の修理の技術を身につけた。期待される結果は、その後、習得した技術を活かし、電子、電気修理店への就職、個人での開業が期待される。

当会からの財政支援は、2003 年末で終了する予定で、自立採算型の職業訓練所として今後の運営にあたる予定である。

コース		
	一般	高校生
縫製 洋裁	90 名の訓練を受けた。2002 年 5 月～2003 年 3 月の期間に 3 コースあり、授業は教官 4 名によって週 5 日間、1 日あたり 4 時間行われている。	バントラバエク高校の女子生徒を対象に実施し、2002 年 4 月～7 月（2001 年からの継続訓練）で 307 名が週 5 時間、1 日あたり 2 時間の訓練を受けた。  また、2002 年 10 月～2003 年 7 月まで、授業時間数は週 6 日間、1 日あたり 2 時間で行われ、607 人が訓練を受けている。なお、教官 3 名が指導にあたった。
電子	青年男子 60 名に対して、2002 年 5 月～2003 年 4 月までの期間に 2 コースがあり、訓練が実施されている。授業が週 5 日間、1 日あたり 4 時間で実施し、教官 4 名が指導にあたる。	高校生男子 353 名を対象に 2002 年 4 月～7 月までに週 5 日、1 日あたり 2 時間で訓練を受けた。  551 名を対象に 2002 年 10 月～2003 年 7 月まで実施中。授業は週 6 日間、1 日あたり 2 時間、教員 3 名が指導にあたる。

#### バタンバン州プレイコンクラール青少年職業訓練センター

##### 全体的な実施状況報告

本センターでは、独立採算性型の職業訓練教育施設のモデルをめざし、2000 年後半より訓練が実施された。対象は、センター周辺の 2 集合村の青少年（ほぼ女性）である。ニーズについても、センターが、村人、地域のリーダーの要望が多かった縫製と養蚕について訓練を開始した。その後、マッシュルーム栽培、農薬を利用しない害虫駆除による農業、養魚とメニューを広めている。当会からの支援は当初の契約にも基づき、2003 年 3 月に終了する。その後は、教育省または、他団体から支援を要請しており、訓練センターにおいてもマッシュルーム等の販売によって自己財源の確保に努めている。今後の訓練内容を訓練生のニーズ、バタンバン州でのマーケットにニーズを考慮し、再検討する予定。

訓練実績

コース	期間	訓練内容	受益者
縫製 洋裁	2002年7月～10月 週5日間、1日あたり 7時間	縫製、洋裁の理論受講。 簡単な男性・女性用衣 服、学生服等の作成	センター周辺に住む、 貧困世帯の26名の女 性
養蚕	2001年9月～12月  週5日間、1日あたり7 時間	養蚕の技術およびシル クの製作	センター周辺に住む、 貧困世帯の15名の女 性
害虫	2002年7月～12月  月あたり5日間 1日あたり7時間	農薬を利用しない農業 方法の実践	センター周辺に住む、 貧困世帯の27名の女 性
マッシュ ルーム	2002年4月～5月  週5日間、1日あたり7 時間	マッシュルームの栽培 方法の理論、実践	センター周辺に住む、 貧困世帯の27名の女 性
養魚	2002年9月  週5日間、1日あたり7 時間	魚の育成に関する座学 および実践	センター周辺に住む、 貧困世帯の26名の女 性

以上

## 補助金の交付決定額及びその精算額

(単位：日本円)

対象国	事業の名称 (区分)	補助金交付決定額
カンボジア	2)青少年職業訓練計画事業	2,188,000

補助対象経費の区分	補助金 (A)	支払実績額	選定額(B)	自己資金 充当額	備考
1、資機材設備費	-	249,171	0	249,171	
2、教材費	224,000	889,036	224,000	665,036	
3、指導者養成費	-	115,836	0	115,836	
4、専門家等人件費	-	-	-	-	
5、現地調整員費	1,243,000	2,282,510	1,243,000	1,039,510	
6、現地補助員費	560,000	1,009,866	560,000	449,866	
7、外部監査費	161,000	161,000	161,000	0	
8、事業管理費	-	159,137	0	159,137	
合計	2,188,000	4,866,556	2,188,000	2,678,556	

補助対象外経費の区分	所要額 (自己資金)	支払実績額 (自己資金充当額) (C)	備考
1 資機材設備費	242,190	249,171	
2 教材費	808,075	665,036	
3 指導者養成員費	189,000	115,836	
4 援助物資輸送費	-	0	
5 現地調整員費	1,397,000	1,039,510	
6 現地補助員費	998,575	449,866	
7 外部監査費	15,000	0	
8 事業管理費	228,015	159,137	
合計	3,877,855	2,678,556	

補助金使用額 (B)	自己資金使用実績 (C)	総事業費 (B) + (C)
2,188,000	2,678,556	4,866,556

ブンベン市日本カンボジア友好職業訓練センター



洋裁・縫製の訓練の様子



電子の訓練の様子